

2023年度 町田市立三輪小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和5年3月31日

学校教育目標	憲法・教育基本法に基づき平和的な社会の形成者として、心身共に健やかな三輪小の子どもを育てる。 ○たくましい子ども ○考え深い子ども ○心の豊かな子ども	学校経営の重点 地域人材・豊かな自然を活用したふるさと教育、ICTを利用した教育活動の充実。
○目指す学校像	「子供の未来をひらく学校」子供たちが互いに関わり、認め合い、高め合いながら、未来を切り拓く基礎作りをしていくことのできる調和のとれた学校を目指す。	重点目標の成果と課題 ふるさと教育については、前年度踏襲型からの脱却を図った。見直しを行い、本当に必要な教育活動に移行させる取組を行うことができた。来年度は、新たな指導計画で実施する。ICTは、児童用タブレットの不備が多くあり、一斉授業に支障が出た。この学びを保証するには、ハード面の充実をしていく必要がある。
○目指す児童・生徒像	「みんな仲よし三輪の子供」自分の良さを見出し、自分も友達も大切にすること。	
○目指す教師像	一人ひとりの子供たちの力を伸ばす指導体制の充実。子供たちの気付きに敏感で、子供を励まし、子供に寄り添う教師。	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	望ましい教育環境を整えるため、保護者、地域との連携を推進しながら教育活動を実施する。	ふるさと教育を中心に地域人材を活用し授業を年間計画に沿って行い、地域と連携した教育活動を実施する。	4 学年で年間3回以上地域との連携行事を実施 3 学年で年間2回以上地域との連携行事を実施 2 学年で年間1回以上地域との連携行事を実施 1 学年で地域との連携行事を実施できず	3.53	A	4 保護者アンケート肯定的評価95%以上 3 保護者アンケート肯定的評価90%以上 2 保護者アンケート肯定的評価80%以上 1 保護者アンケート肯定的評価80%未満	73	B	前年度比-3%。しかし、昨年度より新たな体験活動を計画・実施しており、内容は充実している。	ホームページと学年・学級通信、保護者会等で周知を図りながら、取り組んでいる。	・三輪小の特色でもあるふるさと教育は年々充実度が上がっているが保護者のポイントが前年度より下がったのは残念である。例えばボランティアコーディネーター作成の報告書を学校HPに掲載すると、より保護者にふるさと教育の内容が伝わるのではないだろうか。 ・ホームページは随時更新されており高く評価している。毎年保護者の評価も高く学校の姿勢に満足していることが窺える。	A
			オンラインを活用するなどして授業参観、保護者会を実施し、学校行事も工夫して実施し、学校の様子を積極的に公開していく。	4 年間6回以上公開の場を設定 3 年間5回以上公開の場を設定 2 年間4回以上公開の場を設定 1 年間4回未満公開の場を設定			4 保護者アンケート肯定的評価95%以上 3 保護者アンケート肯定的評価90%以上 2 保護者アンケート肯定的評価80%以上 1 保護者アンケート肯定的評価80%未満			昨年度比+4%。コロナ明け以前の形態に戻った。保護者会は、学校内でオンライン配信で			
			積極的な情報発信に努めると共に、保護者の意見を反映した教育活動の実現を目指す。	4 週4回以上の発信 3 週3回以上の発信 2 週2回以上の発信 1 週2回未満の発信			4 保護者アンケート肯定的評価95%以上 3 保護者アンケート肯定的評価90%以上 2 保護者アンケート肯定的評価85%以上 1 保護者アンケート肯定的評価85%未満			昨年度比+1%。今年度は、HPをリニューアルして、情報発信量を増やしている。			
			フォームを使用するなどして、学校評価・行事アンケートの回収率の向上を図る。	4 アンケートの90%以上で取組を実施 3 アンケートの80%以上で取組を実施 2 アンケートの70%以上で取組を実施 1 アンケートの70%未満で取組を実施			4 学校評価アンケート回収率90%以上 3 学校評価アンケート回収率70%以上 2 学校評価アンケート回収率70%以上 1 学校評価アンケート回収率70%未満			フォームでのアンケートが定着してきたため、お便りもHPを見る習慣ができてきている。			
豊かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	児童の気付きを大切にしながら、主体的な学習態度を育成すると共に、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	プリントやドリル、音読、日記、自主学習やICTを活用したドリル学習などの宿題を通して、家庭の協力を得ながら、知識・技能を定着させる。	4 週4日以上宿題などの家庭と連携した活動を実施 3 週3日以上宿題などの家庭と連携した活動を実施 2 週2日以上宿題などの家庭と連携した活動を実施 1 週2日未満宿題などの家庭と連携した活動を実施	3.53	C	4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価75%以上 2 保護者アンケート肯定的評価70%以上 1 保護者アンケート肯定的評価70%未満	81	A	今後、ソフト活用スキルを上げるため、定期的な利用を促進し、習慣化するとともに、慣れさせる。	学習展開に児童が慣れていないため、各教科で取り入れ、学習の見直しをもたせる必要がある。	・授業参観では積極的に自分の意見を発表する児童が増えた印象を受けた。つながらずタイムの定着と成果を挙げている。 ・総合学習「米作りあがりあいの会」5年生のプレゼンテーションが大変素晴らしいだった。どんな思いで米作りに取り組んだか、食に対する気持ちの変化、地域の人達への感謝が授業の言葉で顕著な語られ、発表力が身に付いていると感じた。特筆すべきはICT教育の成果が存分に発揮されていたことである。今までの積み重ねを高く感じると共に担任の先生方の指導力の高さを感心した。 ・この項目では保護者からは一定の評価を受けているが、先生方の自己評価ではまだ改善の余地がありそうだが今後更なる授業の充実を期待し、注視して行きたい。	B
			学習課題を設定し、問題解決型の授業を行う中で、すすんで学ぶ態度を育て、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	4 90%以上の単元で実施 3 80%以上の単元で実施 2 70%以上の単元で実施 1 70%未満の単元で実施			4 保護者アンケート肯定的評価90%以上 3 保護者アンケート肯定的評価80%以上 2 保護者アンケート肯定的評価70%以上 1 保護者アンケート肯定的評価70%未満			ワークシートを主に使用する授業や、ノート指導の難しさを感じる教員(若手)が多い。			
			個々の思考の広がりや深まりを大切にされた思考力・判断力・表現力の育成を図る。	4 意見交流の場であるつながらずタイムや友達との意見交換を実施し、考える力を育てる。 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の単元で実施			4 児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 3 児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 2 児童の60%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言 1 児童の60%未満が自分の考えを表現し、学び合いで発言			ノートに書くことは、思考力を養うのに有効な手段である。校内研修で進めていく。			
			学習課題の解決を通して、個々の児童の考えの跡が残るノート指導を実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の単元で実施			4 児童の80%以上が自分の考えを表現している。 3 児童の70%以上が自分の考えを表現している。 2 児童の60%以上が自分の考えを表現している。 1 児童の60%以上未満が自分の考えを表現している。						
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること、意欲・態度を育てる。	他者理解と自己理解を通して、一人一人の自己肯定感を醸成する。	道徳の授業での発言やワークシートへの記入を通して、道徳的価値に対して自分なりの考えをもつ。	4 児童の90%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 3 児童の80%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 2 児童の70%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 1 児童の70%未満が道徳的な価値についての自らの考えを形成。	3.63	A	4 児童の90%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 3 児童の80%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 2 児童の70%以上が道徳的な価値についての自らの考えを形成。 1 児童の70%未満が道徳的な価値についての自らの考えを形成。	95.2	A	つながらずタイムを継続することで、自分の考えを表現することができるようになった。	道徳的価値が伝わる授業展開を計画する。	・元々素直で穏やかな児童が多いと感じている。アンケート結果でも自己肯定感が高く大変素晴らしい。引き続き児童の長所を引き出す指導に期待している。 ・いじめに関して早期発見、早期解決に取り組んでいるように見受けられる。今後も児童が相談しやすい環境作りを確保して欲しい。 ・挨拶は児童に関しては地域の見守りと校長先生の登校時の校門での挨拶で成果が現れていると感じる。残念なのは一部の先生ではあるが地域への挨拶がないことである。児童の規範となるよう先生方も地域への挨拶に取り組んでいただきたい。	A
			心のアンケートの活用や年3回のいじめに関する授業を実施し、早期発見・早期解決を図ると共に全てのいじめに対して指導を実施する。	4 全てのいじめに対して指導を実施。 3 90%以上のいじめに対して指導実施 2 80%以上のいじめに対して指導実施 1 80%未満のいじめに対して指導実施			4 児童アンケート肯定的評価90%以上 3 児童アンケート肯定的評価80%以上 2 児童アンケート肯定的評価70%以上 1 児童アンケート肯定的評価70%未満			20%余りが相談できていないと回答しており、コミュニケーションを自分から取りにくい状況がある。			
			日々の生活をはりあるものにしよと心がけ、行動する態度を培う。	4 児童の90%以上が主体的に活動 3 児童の80%以上が主体的に活動 2 児童の70%以上が主体的に活動 1 児童の70%未満が主体的に活動			4 児童の90%以上が主体的に活動 3 児童の80%以上が主体的に活動 2 児童の70%以上が主体的に活動 1 児童の70%未満が主体的に活動			高学年を中心に積極的な活動が見られ、下学年の手本となっている。			
			教員や保護者、地域の人たちに、自からすすんであいさつする態度を育てる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施			4 保護者アンケート肯定的評価90%以上 3 保護者アンケート肯定的評価80%以上 2 保護者アンケート肯定的評価70%以上 1 保護者アンケート肯定的評価70%未満			昨年度比+2%。登下校時のあいさつは習慣化している。地域の見守りの方のおかげである。			
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や学期ごとの体力向上の取組を実施し、日常的に運動や遊びに取り組み。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	2.78	C	4 児童アンケート肯定的評価90%以上 3 児童アンケート肯定的評価80%以上 2 児童アンケート肯定的評価70%以上 1 児童アンケート肯定的評価70%未満	86.4	A	前年度比-1%。校庭遊びは、曜日が決まっており、校内で過ごすこともある。	体育朝会などを設け、全校で運動に親しみ環境を整えていく。	・ここ数年を避けながら運動の機会を持つのは大変だったと推察する。そんな中体力テストでソフトボール投げのポイントが伸びたことはとても喜ばしい。楽しく運動に取り組める工夫が継続に繋がっており、大変素晴らしい。今後は運動場の使用時間を学年で分ける等の制約を取り払ってもらいたいのではないかと。また体力テストで東京都の平均のポイントを近づけるのは一歩一歩ではあるが、今後も工夫を凝らした授業展開に期待したい。	B
			自らの生活リズムについて考え、家庭と連携した健康教育や食育を推進する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施			4 保護者アンケート肯定的評価90%以上 3 保護者アンケート肯定的評価80%以上 2 保護者アンケート肯定的評価70%以上 1 保護者アンケート肯定的評価70%未満			前年度比-4%。給食をよく食べ、食に興味のある児童は多い。受験やゲームなど、生活習慣の乱れが影響			
			校内の安全な生活環境を整え、自分や相手を守る安全教育の実施と感染症対策を講じた習慣を身に付けさせる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施			4 保護者アンケート肯定的評価90%以上 3 保護者アンケート肯定的評価80%以上 2 保護者アンケート肯定的評価70%以上 1 保護者アンケート肯定的評価70%未満			家庭では決まりを守って過ごしているようである。学校では、廊下歩行など、日常生活の場面で、注意している。			
			交通安全や不審者対応など、日頃から安全を意識した行動をとる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施			4 児童の90%以上が主体的に活動 3 児童の80%以上が主体的に活動 2 児童の70%以上が主体的に活動 1 児童の70%未満が主体的に活動			昨年同様高い評価が得られた。今年度、通学路から外れた下校の様子が見られなかった。			
その他													

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。